



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.7.25 No. 3434

徴兵制!

本当に徴兵制が始まるの?

昨年は「一・五七シヨック」、今年は一・五三シヨック」なのだそうである。何のことかという、女性が一生のうちの子供を生む平均数がこのような数になるというのだ。これで行くと、若者の減少によって、あと数年のうちに日本の経済は大ダメージを受けるようになるというのだ。生めないような社会的・経済的状況を自らつくっておきながら、このような宣伝をするのもひどい話だが、すでに大手企業では、生産ラインを女性や高齢者でも耐えられるように造り変え始めている。自衛隊に入ろうとする者などいなくなるのは当然のことである。

徴兵制は目の前まで迫っている

このような状況を見すえて、文部省は、大学生を一定の期間、強制的に自衛隊に体験入隊させる制度を真剣に検討しているというの

だ。また防衛庁は、「隊員募集対策プロジェクトチーム」を設置し、民間企業とタイアップして、若手社員を期限を区切って身分を自衛官として自衛隊に参加させるシステムを導入することを検討し始めている。そうなれば、入隊を拒めば職場を辞める以外に、実質的には、強制入隊となる。さらに、公共職業安定所の「ハローワーク」での隊員募集も積極的に進めるというのだ。これも、「ハローワーク」に職業斡旋を申し込んで指定された場合には、必ず一度は行かなければならないシステムであり、半強制になる。

結局、行き着く先は徴兵制だ。しかもそれは、われわれが考えているように遠い未来の話ではなく、もうすぐ目の前まで迫っていることなのだ。

自民党は、うまいことを言いながら、自衛隊派兵や小選挙区制の問題を強引に進めているその裏で、すでに徴兵制まで含めて着々と準備をしていことは間違いないのである。

「戦争」について考える!

6

本当にあった怖い話

ちよつと古い話しになるが、朝日新聞に次のような記事がのつていた。夏の甲子園で起きた「フォアアウト事件」だ。

「あのとき、恐らく百人を超す人たちがスコアをつけていた。『おかしいな』と気づいた人も大勢いたに違いない。ところが大声をあげて試合の進行を止めるほど万全の自信がなかった。スコアボードという間違えるはずのない『機械』が誤ったアウト数を指示していたのも、みんなの自信をぐらつかせた。自信喪失と機械信仰の時代。」

熱気のなか、試合は快調なテンポで進んでいた。グラウンドの選手たちは夢中だった。球場という閉ざされた場所の中で、群衆のムードは、一つにまとまっていた。審判が、はつと、かちがいに気づいたとき、次の打者はもう球を打っていた。ムードと時の流れに押し流される危険。

ネット裏で、観客席で、誰かが誤りに気がついたとしても、それを選手や審判に伝えるすべがなかったらう。グラウンドとスタンドは、塀で隔離され、ネット裏と審判の距離は遠い。観衆が文字どおり、外野席に置かれ、進行している事態をどうすることもできないもどかしさ。いわゆる「疎外」の状況。

なにかおかしいことが起こっているぞと、みんなが気がついていながら、いつの間にか事柄のほうに先に進んで行ってしまう。こういう危ない事態はなにも甲子園だけの話ではあるまい。民衆が声をあげないと、王様はいつまでも裸のままである。これが野球場でない場合、4アウトになつてから気づいたのでは遅すぎる。(八二年八月十四日付「朝日新聞」)

ことが野球だったからこれです。をあげなければ、今の状況はいつんだ。しかし、ムードと時の流れ。たいどうなつてしまうのか? 戦におし流され、みんながおかしい争は、「4アウト」になつてからと気がついていながら、民衆が声。では遅いのだ。

全力で
7.28
国会
闘争へ
清水谷公園
指定列車
千葉発10時34分(快)